

1107 新医協 第 68 回 全国研究集会抄録

記念講演・シンポジウム 「ともに歩む認知症医療とケア」

【シンポジウム】

演題：

医療・介護連携による「認知症の人およびそのご家族を支えるための認知症専門鍼灸師育成事業」の取り組みと成果

演者： 兵頭 明

肩書： 学校法人後藤学園ライフエンス総研 中医学研究所所長

【兵頭抄録】(600 字)

一、認知症に対する鍼灸治療の可能性をさぐる

認知症に対する鍼灸治療の可能性をさぐるため、2009 年 10 月 31 日に文部科学省戦略的基盤研究・社会連携研究推進事業の一端として認知症国際フォーラム「認知症に東洋医学が挑む」が開催され、天津中医薬大学・第 1 付属病院の韓景献院長によりアルツハイマー病と血管性認知症 435 症例の患者を対象とした鍼灸治療によって MMSE（認知機能検査）スコアの改善、日常生活動作（ADL）の改善がはかられたことが報告されました。

二、医療・介護連携による認知症専門鍼灸師の育成事業スタート

（一社）老人病研究会（認知症国際フォーラム主催機関）は天津の韓景献院長の基礎研究・臨床研究成果を踏まえ、2010 年 10 月から昨年までに医療・介護連携型による認知症 Gold-QPD 育成講座を合計 6 回開催し、現在約 100 名の認知症専門鍼灸師が在宅・高齢者入居施設・通所介護施設、鍼灸治療院等にて多くの認知症の方のサポートを行っています。

三、多職種連携の中での認知症に対する鍼灸治療の成果と今後の可能性

ここでは、この認知症専門鍼灸師が家族連携、施設連携をベースに取り組んでいる在宅、高齢者入居施設、通所介護施設、グループホームなどでの取り組み成果の一部をご紹介します。今後の様々な連携の可能性を一緒に探ってまいりたいと思っております。